

1. 建物概要

建物名称	エコフード工場(フード工場棟)	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	-----

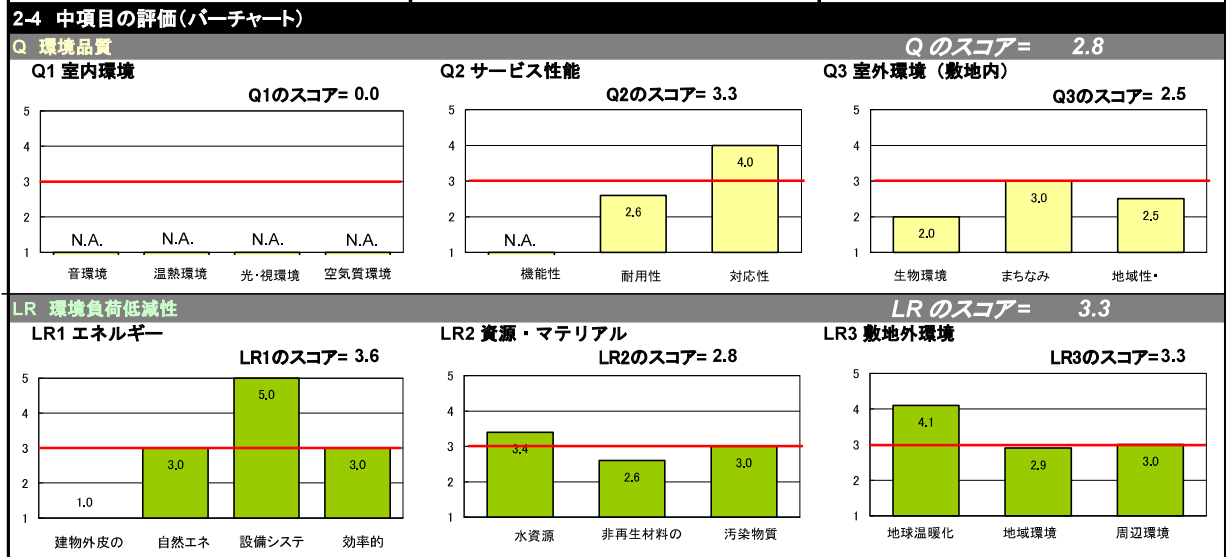
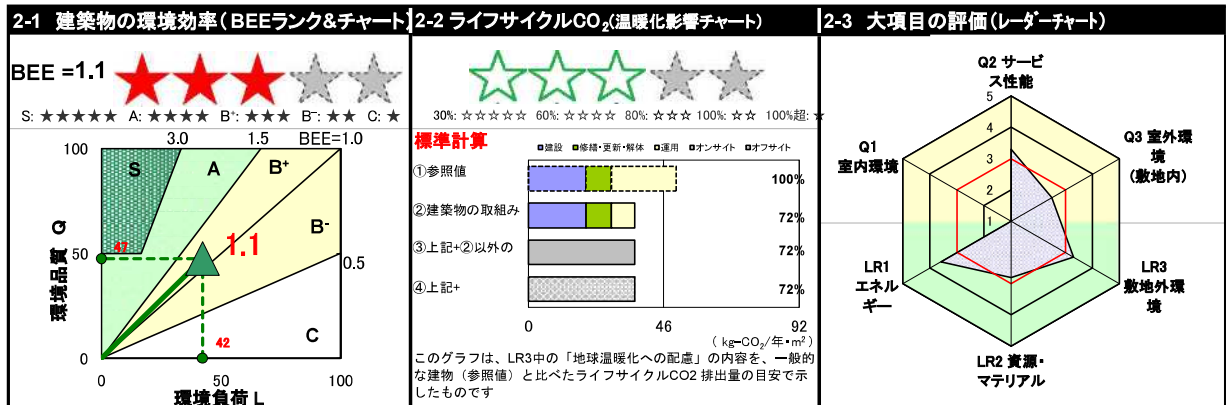
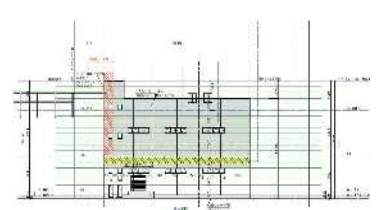
2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.7 /5		ふつつ
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.5 /5		がんばろう
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.3 /5		ふつつ
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上 がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。	内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)	得点	3.7
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④ダクトの保温にステンレス等を使用し長寿命化を図っている ④給水管、排水管、給湯管は更新必要間隔が長いものを採用している	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数が20%以上50%未満である	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑨省エネルギーに配慮した設計をしている	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪過半数に節水器具を採用している ⑫分別が容易な建材を使用している	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑪ 材料使用量の削減 ⑪ 既存建築躯体等の継続使用 ⑪ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑪ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑪ 持続可能な森林から産出された木材 ⑪ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑪ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算が3.4 ⑮隣棟間隔指数が0.5以上である、地表面対策面積率が15%以上30%未満である	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)	得点	2.5
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)	得点	3.3
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高にゆとりがある ⑲壁長さ比率が0.12である	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲ネットフェンスを設置している	Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)	得点	2.8
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑯まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥空地率が40%以上60%未満である、水平投影面積が10%以上20%未満である	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑯ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮アメダスデータを用いて、風環境を把握している	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	エコフード工場(フード工場棟)	階数	地上2F	
建設地	静岡県静岡市駿河区恩田原・片山	構造	S造	
用途地域	市街化区域、工業地域	平均居住人員	50 人	
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年10月 予定	評価の実施日	2024年4月24日	
敷地面積	3,487 m ²	作成者	青木 信浩	
建築面積	1,517 m ²	確認日		
延床面積	3,098 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合	CASBEE静岡 (2016年版) による評価結果です。	その他 特になし
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 階高が高くゆとりのある構造となっている。	Q3 室外環境 (敷地内) 植栽が多く良好な景観づくりを行っている。
LR1 エネルギー LED照明を採用し環境負荷の抑制に努めている。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を使用し水資源に配慮している。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される